

Data Pump ユーティリティへのエクスポート方法とパラメータ指定

Data Pump の場合、ディレクトリ・オブジェクトを作成して、そこへダンプファイルやログファイルを出力します。

サーバーで、直接実行すること

■ データ・エクスポート・ユーティリティでのパラメータ指定

(1) コマンドラインでの直接指定方法

```
expdp system/password FULL=y DIRECTORY=DATA_PAMP_DIR
      DUMPFIL=full%U.dmp
```

(2) パラメータ用ファイルの使用

```
expdp system/password PARFILE=full.exp
                        ↓ full.exp テキストファイル
FULL=y
DIRECTORY=DATA_PAMP_DIR
DUMPFIL=full%U.dmp
```

■ パラメータの種類

パラメータ	説明	デフォルト値
CONTENT	アンロードするデータを指定 (ALL、DATA_ONLY、METADATA_ONLY)	ALL
DIRECTORY	ダンプとログに使用するディレクトリ・オブジェクト	なし
DUMPFIL	ダンプファイル名	expdat.dmp
ESTIMATE	推定ジョブ時間を算出する方法 BLOCKS=ブロック数×ブロックサイズ STATISTICS=オプティマイザ統計情報	BLOCKS
ESTIMATE_ONLY	エクスポートを実行しないで推定ジョブ時間だけを算出	なし
EXCLUDE	特定オブジェクトタイプを除外	なし
FILESIZE	ダンプファイルのサイズを指定	なし
FULL	データベース全体をエクスポート	N
HELP	ヘルプメッセージを出力	N
INCLUDE	特定オブジェクトタイプを含める	なし

JOB_NAME	作成するエクスポートジョブ名	なし
LOGFILE	ログファイル名	export.log
PARALLEL	ジョブの平行度を指定	なし
PARFILE	パラメータファイル名を指定	なし
SCHEMAS	エクスポートするスキーマをリスト指定	なし
TABLES	エクスポートする表名をリスト指定	なし
TABLESPACES	エクスポートする表領域名をリスト指定	なし
TRANSPORT_TABLESPACES	メタデータのアンロード元表領域のリスト指定	なし